

平成28年度 FD(教育技能)研修会・意見交換会を開催しました

2016年12月27日

12月13日(火)アーバンホテル南草津において「地域里親学生支援」の事業の一環である「FD研修会・意見交換会」を開催しました。

この研修会は、学外におられる里親・プチ里親の方々に大学の状況をお伝えし、里子学生の置かれている状況を知っていただく情報共有の場としています。

今回の研修会では、今年度4月から副学長に就任され、本学医学科2期生でもある山田 尚登副学長(教育・広報・渉外等担当)から「迫りくる医学教育改革について」と題して、ご講演いただきました。

講演では、日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価とそれに基づく滋賀医科大学の対応についてのお話をいただきました。

引き続き、和やかな雰囲気の中、出席者の自己紹介などを含め意見交換や懇談が行われました。ペアで参加された里親・里子の姿もあり、日頃メール交換が中心の先生方と一層交流が深まる良い機会となったようです。

お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。



【開催案内】滋賀県医師キャリアサポートセンター懇談会(1/17)

2016年12月21日

滋賀県医師キャリアサポートセンターから、「平成28年度 第4回滋賀県医師キャリアサポートセンター懇談会」開催のお知らせです。

参加希望の方は、キャリアサポートセンターまで、氏名・学年を添えてメールで申し込みください。

記

日 時: 平成29年1月17日(火)17:30～(1時間程度)

会 場: 滋賀医科大学医学部附属病院 医師キャリアサポートセンター室
(病院外来棟3階 第3会議室前)

講 師: 滋賀医科大学 リハビリテーション科 尾木 祐子先生

テーマ：『整形外科医として働きはじめて—現在、過去、未来—』

参加費： 無料

対 象： 医学生

(主に4年生、5年生が対象ですが1年生～6年生も参加可能です。)

医学生からの質問や相談もお受けします。

この機会に気になること、知りたいことを先輩にお聞きしてみませんか？

本学以外の医学生の方も大歓迎です。

皆さまのご参加をお待ちしております。

参加をご希望される方は下記の連絡先まで、学年・氏名をご記入の上
メールでお申し込みください。電話でも受け付けております。

詳細につきましてはHPをご覧ください。

<http://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/>

〔問合わせ・申込先〕

滋賀県医師キャリアサポートセンター

事務担当・相談窓口： 滋賀医科大学病院管理課

住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL：077-548-3656

E-Mail：ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp

担当：北川・中野

【開催案内】「第9回 卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しま

す！
2016年12月21日

大雪警報のため、延期となりました。

学生の皆さんが、医師や看護師としての自分の将来像を探すことを応援するために、

「卒業後の自分を考える連続自主講座」を、下記のとおり開催します。

9回目の今回は、多彩な生き方、働き方をされてきた女性の医師と看護師の先輩方に、
体験談をお話いただきます。素朴な疑問や不安に思っていることなど、何でもお聞き
ください。

将来のロールモデルとなる先輩を囲んで、充実したひとときをお過ごしください。

女子学生だけでなく、男子学生、現在仕事や子育てに奮闘中のあなたの参加をお待ち
しています。

記

【演題】

「仕事・家庭・子育て 私のワークライフバランス」

【講師】

木築 野百合 医師(きづきクリニック院長、滋賀医科大学医学科5期生)

石原 仁 看護師(栗東市訪問看護ステーション)

大黒 典子 看護師(訪問看護ステーションさと信楽サテライト)

林 みさ子 看護師(湖南市立石部医療センター)

【開催日】

平成29年1月20日(金)午後6時～8時

【場所】

滋賀医科大学クリエイティブモチベーションセンター CMCホール

【その他】

軽食を用意しますので、事前に申し込んでいただくと助かりますが、

当日参加も大歓迎です。途中からの参加も可能ですので、

お気軽に申込みください。

【申込先】

認定NPO法人 滋賀医療人育成協力機構

(滋賀医科大学 学生課 里親学生支援室内)

TEL:077-548-2802 FAX:077-548-2803

E-mail: satooya@belle.shiga-med.ac.jp

第8回「卒業後の自分を考える」連続自主講座「災害と救急医療～救命のために～」を開催しました

2016年12月2日

第8回「卒業後の自分を考える」連続自主講座『災害と救急医療～救命のために～』を開催しました。

学生の皆さんが、医師や看護師としての自分の将来像を探すことを応援する「卒業後の自分を考える」連続自主講座を、11月4日にクリエイティブモチベーションセンターにおいて開催しました。

今回の講師には、江口 豊教授(滋賀医科大学救急集中治療医学講座、滋賀医科大学医学科2期生)、田畑 貴久講師(滋賀医科大学救急集中治療医療学講座、滋賀医科大学医学科13期生)、飯島 圭主任(滋賀医科大学施設課電気係)、武村 佳奈子副看護部長(滋賀医科大学医学部附属病院 看護部(2C))をお迎えし、お話を聞かせていただきました。

「世界標準治療を超えて」

江口 豊先生からは、2010年に心肺蘇生法の国際ガイドラインが改定され、心肺停止患者に対する人工心肺装置の活用、緊急冠動脈形成術や脳低温療法の施行が社会復帰に繋

がると示唆されました。

救急集中治療医学講座では、人工心肺装置装着や脳低温療法を積極的に導入し、世界のガイドラインの推奨度を超えた先進的治療を行っています。医師はガイドラインを遵守し診療に当たることはもちろん大切ですが、医学の進歩のためにガイドラインを作成する医師になろうという気構えも持ってほしい、とのお話がありました。



「災害への備え～災害の現場から～」

田畑 貴久 先生からは、外科医として診療を行っていたのですが、外科診療で扱う外傷の手術・処置の方が自分には合っていると思い、救急集中治療の道に進むようになりました、とのことでした。

医大で日常勤務をしながら、滋賀医科大学DMAT隊員として活動しています。災害現場で、DMATとして活動できる環境を整備したり、大学内で災害医療に対応できる人材の育成・体制の構築に努めています。



「チーム医療の要～メディカルスタッフの立場から～」

飯島 圭 氏からは、平時は滋賀医科大学施設課電気係員として勤務されていますが、災害時「滋賀医科大学DMAT」への出勤命令が出た際には、業務調整員として災害地に赴き活動されている様子をDVDにまとめお話をいただきました。

武村 佳奈子看護師からは、現在は2C病棟に勤務していますが、就職当初の勤務はICUで5年間お世話になりました。そこで江口先生に出会い、救急医療に興味を持ち2009年には「救急看護認定看護師」になり、現在は大学院で学んでいます。

現在「滋賀医科大学DMAT」には、医師6名、看護師11名、業務調整員4名の隊員がおり、災害時には1チーム5名で活動します。東日本大震災では、花巻空港のSCUでトリアージ、応急処置などの活動をしました、とのお話がありました。



最後に学生さんから色々な質問があり丁寧に回答いただいた中、特に印象に残ったのは、

講師の皆様が口をそろえて、「自分だけの力では何もできません、皆のチーム力が必要です。」と謙虚に語ってくださったこと。

「医師・看護師など人の命に係わる仕事に携わるということに腹をくくれ！」というお言葉。

「卒業後、どの科に進むかは自分の一番好きな事を選べばよい。進む道はおのずと開けて来ます。私達も外科医を目指していたが、現在は救急治療の道を進んでいます。」

学生の皆さんの心にずっしりと刻まれるお言葉をいただき有難うございました。



【参加学生の声】

・攻める医者、守る医者というのが印象に残りました。どちらかという守る医者の方に逃げたいと思ってしまうのですが、江口先生のお話を聞いて、攻める姿勢も大切なのだなと感じました。

災害医療の携わる人に、業務調整員という職種があることは知っていたのですが、話を直接聞くことができ、イメージとしてはっきりしたものになりました。

滋賀医大の救急について以前よりも知ることができました。

・私にとってガイドラインは暗記して実行するものでした。今日のお話の中のガイドラインを作る側に自分になる、という言葉には目からうろこが落ちました。

施設課の方が、医師や看護師と一緒にお仕事をしている姿に新鮮な感じがしました。

・私は医学科1回生で、卒業後どのような医療活動に従事するかまだ具体的に決まっていなかったが、実際に災害現場で医療活動に従事している医師や看護師、業務調整員の生の声を聴くことで、災害医療に対する関心が深まり、将来災害医療に従事することを視野に入れる良い機会となったと思う。

また、災害医療は平常よりも、様々な職種の方々と連携が求められ、また業務調整員の方たちの支えが、円滑に医療行為をするにあたって非常に大切であるということ学んだ。

最後に、質疑応答があったが、その中で江口先生をはじめとして激励のお言葉があり、感銘を受けた。人生の先輩方からのアドバイスを忘れず、これからの学生生活を有意義に過ごしていきたい。

・講師の先生方の能動的に医療に関わっておられる姿勢をお話し頂いて、日頃授業を受けてそのまま終わっていないか、受動的になっていないか、と反省する機会になりました。日々の授業も情報量が膨大ではありますが、先生方も仰っていたように、何が役に立つかは必要になるまで分からないので、試験にとらわれず学んでゆきたいと思います。

・普段は一方的にお話を聞いている先生方と近い距離で、個人的なお話も交えて会話できたことが良かったです。気軽にオフィスを訪ねるきっかけも頂きました。ありがとうございます。

【開催案内】滋賀県医師キャリアサポートセンター懇談会(12/16)

2016年11月11日

滋賀県医師キャリアサポートセンターから、懇談会開催のお知らせです。

参加希望の方は、キャリアサポートセンターまで、氏名・学年を添えてメールで申し込みください。

記

日時：平成28年12月16日(金)18:00～(1時間程度)

会場：滋賀医科大学医学部附属病院

医師キャリアサポートセンター室(病院外来棟3階 第3会議室前)

講師：滋賀医科大学 母子診療科 特任助教 桂 大輔先生

テーマ：『キャリアパスについて』

参加費：無料

対象：医学生

(主に4年生、5年生が対象ですが1年生～6年生も参加可能です。)

医学生からの質問や相談もお受けします。

この機会に気になること、知りたいことを先輩にお聞きしてみませんか？

本学以外の医学生の方も大歓迎です。

皆さまのご参加をお待ちしております。

参加をご希望される方は下記の連絡先まで、学年・氏名をご記入の上メールでお申し込みください。電話でも受け付けております。

詳細につきましてはHPをご覧ください。

<http://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/>

〔問合わせ・申込先〕

滋賀県医師キャリアサポートセンター

事務担当・相談窓口：滋賀医科大学病院管理課

住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL：077-548-3656

E-Mail：ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp

担当：北川・中野

【ご案内】リレー・フォー・ライフ・ジャパン、学園祭での地域「里親」ブース

2016年9月30日

設置について

里親学生支援室では、「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016滋賀医科大学」、「学園祭(若鮎祭)」期間中に『地域「里親」ブース』を認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構と合同で設け、事業の紹介や活動内容等をご覧いただける写真等の展示を行います。

お時間のご都合がございましたら、是非お越しください。

⇒リレー・フォー・ライフ、学祭案内チラシ.pdf

ブース開設時間

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016滋賀医科大学」

日時：平成28年10月8日(土)13:00~16:00

10月9日(日)9:00~12:00

場所：滋賀医科大学 中庭

「学園祭(若鮎祭)」

日時：平成28年10月29日(土)12:00~16:00

10月30日(日)10:00~15:00

場所：滋賀医科大学 福利棟1F

【開催案内】滋賀県医師キャリアサポートセンター懇談会(7/5)

2016年6月3日

第1回 滋賀県医師キャリアサポートセンター懇談会の開催案内

日時：平成28年7月5日(火)17:30~(1時間程度)

会場：滋賀医科大学医学部附属病院
医師キャリアサポートセンター室 (病院3階 第3会議室前)

講師：滋賀県医師キャリアサポートセンター専任医師 高橋 健太郎
(総合周産期母子医療センター、女性診療科 特任教授)

テーマ：『私の履歴書—乱学事始め~懈怠心緒—』

参加費：無料

対象：医学生

(4年生、5年生が主に対象ですが、1年生~6年生も参加可能です)

皆さまからの質問や相談もお受けします。
この機会に気になること、知りたいことをお聞きしてみませんか?
本学以外の医学生の方も大歓迎です。

皆さまのご参加をお待ちしております。

参加をご希望される方は下記の連絡先まで、学年・氏名をご記入の上
メールでお申し込みください。電話でも受け付けております。

詳細につきましてはHPをご覧ください。
<http://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/>

〔問合わせ・申込先〕
滋賀県医師キャリアサポートセンター
相談窓口・事務担当： 滋賀医科大学病院管理課
住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
TEL：077-548-3656
E-mail:ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp
担当：北川・中野

東近江市・日野町方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しまし

2016年4月19日

た

3月24日(木)・25日(金)に、東近江市・日野町方面を訪問させていただいた平成27年度春の宿泊研修には、里親登録学生を含む本学学生13名(1~3年生)と卒業後は東近江市内の病院で勤務する予定の看護学校専門学校生2名と准看護専門学校生1名が参加されました。

今回参加された学生は、一度社会人として働いた経験を持つ方が多く、その分地域医療に興味があつて、学びの多い研修になったようです。

24日(木)1日目

滋賀医科大学を出発し、里親の事業での宿泊研修が始まって以来、初めての訪問先となる蒲生郡日野町へ向かいました。

①地域見学(日野町のまちなみ)

近江日野商人発祥の町、日野町のまちなみを地元ボランティアガイドの説明を聞きながら見学しました。

室町時代の蒲生氏の城下町としての軌跡や、漆器や薬の行商で全国に名をはせた近江日野商人の家屋、800年以上の歴史をもつ「日野祭」の舞台となる馬見岡綿向神社の社殿を見学させていただきました。

昼食は近江商人の旧家、旧山中正吉邸において、料理好きの地域のご婦人が作ってくださった日野の伝統料理を、庭園に面した客間で、総漆の祝い膳でいただきました。

料理もおいしく豪華で、強く印象に残った昼食でした。



② 日野記念病院訪

問

日野町の中核病院である日野記念病院を訪問させていただきました。

花澤院長の案内で院内の各所や、隣接する特別養護老人ホームを見学させていただきました。その後、地域における日野記念病院の概要等についてお話をきかせていただきました。



③ 東近



江市立蒲生医療センター訪問

東近江市立蒲生医療センターでは、加藤院長先生のお話の後、在宅医療の専門部門である家庭医療センターの北川医師と後期研修医の横田医師によるミニワークショップを体験させていただきました。その後、センターの概要について伺い、施設見学をさせていただきました。



④
交
流

会

夕方は、宿泊先の八日市ロイヤルホテルにおいて交流会を開催しました。

交流会第1部では、「三方よし研究会について学ぶ」として三方よし研究会代表 小串輝男氏から研究会の地域での役割等について動画を交えた資料を用いて解説を受けました。また、丸山薬局 大石和美薬剤師からは、子三方よしチーム永源寺での薬剤師としてのご自身の活動を中心にご講演いただきました。

交流会第2部では、東近江地域で三方よし研究会に深く関わって活動されている方々、訪問先関係者や里親の方にも参加いただき、和やかな雰囲気の中、意見交換や懇談が行われました。



25日(金)2日目

① 地域見学(永源寺、世界凧博物館東近江大凧会館)

山が白く色づき朝から小雪が舞う中、永源寺へ向いました。

永源寺では、地元ボランティアの方の説明を聞きながら梅の香の漂う境内を散策し、世界凧博物館では東近江大凧の歴史についての説明を聞き、実物の100畳大凧や世界の凧の展示を見学しました。

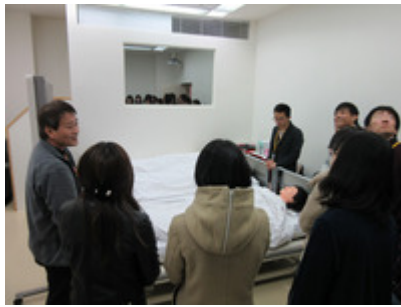


①
東
近江総合医療センター訪問

午後からは、東近江方面の中核病院であり滋賀医科大学の研修施設でもある、東近江総合医療センターを訪問しました。辻川副院長から東近江市の医療の実情や地域の病院で働くことについてのお話を伺った後、スキルスラボ研修施設において、胃カメラの操作や縫合等の体

験させていただきました。





今
回
も、
地
域
の



方々をはじめたくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学び多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

里親学生支援事業としての5回目の卒業生を送り出しました

2016年3月16日

平成28年3月10日(木)に平成27年度滋賀医科大学の卒業式が挙行政され、里親学生支援事業としては、5回目の卒業生(医学科16名)を送り出しました。

卒業する学生達が、それぞれの新しく進む道で活躍し、また、今度は自分たちが里親となり、後輩たちを支援してくれればと期待しています。

写真撮影は、医師国家試験説明会前に集合し、里親学生支援室員が卒業生を囲んで撮影を行いました。



1月13日に第7回「卒業後の自分を考える」連続自主講座を開催しまし

2016年2月17日

た

小児科領域のお話を聞きたいという要望により、1月13日にクリエイティブモチベーションセンターにおいて講師に、阪上 由子医師(滋賀医科大学小児発達支援学講座・特任助教、滋賀医科大医学科19期生)、中村 美智 看護師(滋賀医科大学医学部附属病院看護部 NICU/GCU 6年目看護師、滋賀県立総合保健専門学校卒業)、西澤 嘉四郎医師(近江八幡市立総合医療センター副院長、滋賀医科大学医学科3期生)をお迎えし、お話を聞かせていただきました。

阪上由子先生からは、子どもたちの命と健康を支える「メンタルヘルス」を中心にお話いただきました。

・我が国の児童・思春期をめぐる精神保健の歴史は、戦後の戦災孤児の養護から始まり、発達障害、虐待へとトピックスが変化していて、発達外来の診察では、虐待症例などの事例検討会等、関係機関との連携を要するケースが年々増えています。

・小児科では「成長+発達=発育」という視点で子どもの発育を評価していますが、神経発達障害(Neurodevelopmental disorder)の多くは学童期以前に出現し、通常の発達と異なり、

社会性・対人相互交流性コミュニケーションの課題をもつASD(自閉症スペクトラム障害)、不注意や多動衝動性が顕著なADHD(注意欠如多動性障害)、読み・書き・計算などの学習スキルに課題をもつLD(学習障害)などが含まれます。神経発達障害の診療においては、福祉や教育との連携が重要で、地域においては発達支援センターなどが中核となり、切れ目なく支援を継続する体制が作られつつあります。また、虐待の予防については妊娠早期からの母体のメンタルヘルスのマネジメントが重要であることが明らかになってきました。出産後に保護者の抱える「養育困難」をどうサポートしていくかが今後の課題です。



ご自身は、滋賀医大卒業後は大学小児科へ入局、結婚、大学院へ入学、出産と順風満帆な人生を歩んでこられました。ご自身の病気と問題が生じて大学院を中退された後、小児科(発達外来)での診療に従事され、小児科学会専門医、小児精神神経学会認定医、医学博士の学位を取得され、現在は小児発達支援学講座のスタッフとして勤務されています。

人生には色々な問題も生じますが、サポートしてもらえる職場の皆との和、お互い様という気持ちが大切とおっしゃってられました。

中村美智先生からは、NICU・GCU病棟勤務看護師の仕事についてお話いただきました。

・滋賀県立総合保健専門学校卒業後、滋賀医科大学医学部附属病院に就職し、産婦人科病棟での勤務を希望されましたが、NICU(新生児特定集中治療室)・GCU(成長促進室)病棟の勤務となりました。

・当初は、赤ちゃんの小さいことにびっくりし、聞いたこともない疾患や慣れない看護技術に戸惑い、こんな特殊な部署で看護師として働けるかな?と思いましたが、勤務も6年目となります。

・ケアが予後に影響するので、赤ちゃんが出す小さなサインも見逃せず、勤務中は、常に緊張との戦いですが、小さく産まれた赤ちゃんが、日々成長していく姿や両親の笑顔が励みとなり、ここで看護師をして良かったと思います。



NICU・GCU病棟の看護師は、赤ちゃんの看護だけでなく、赤ちゃんのご両親の心のケアや、赤ちゃんの退院に向けての育児指導などご家族との関わりも大切とおっしゃってられました。

西澤嘉四郎先生からは、小児科医の現状と小児医療供給体制についてお話いただきました。

・小児科は、15歳以下の小児を対象とする診療科ですが、子供を診るだけでなく親も診る診療科です。

- ・現在、小児科医の高齢化が問題です。
- ・皮膚科、眼科、小児科では、医師の3割以上が女性医師です。
- ・滋賀県内の周産期医療体制の充実を図っているため、新生児の死亡は少なくなっています。
- ・小児救急医療は、新臨床研修制度(2004年)頃より病院で標ぼうしている小児科数が減少し小児科救急医療が難しいなか、小児科救急に関する課題を検討し小児科医療提供体制の構想を進めています。
- ・高度先進医療、臨床研究の推進に伴い、様々な新しい治療方法の開発が進められています。
- ・医療技術の進歩によって在宅での医療支援が必要な子どもや長期生存が可能となった難病の子どもは増加傾向にあり、小児科という年齢を超えた成人医療への連携と、次世代につなげる成育医療が必要になっています。



ご自身は、滋賀医大卒業後は大学小児科へ入局後、国立立川病院で勤務された後、滋賀医科大学大学院修了後は、滋賀県内の病院小児科医として勤務されています。

一度滋賀県外に出て働いたことで、滋賀県の良さや大学の温かみがよく判りました。色々な経験を積むことが大切とおっしゃっておられました。

学生との懇談時に「学生が卒業までにやっておくべき事は、何ですか？」と質問した答えは、3先生とも「コミュニケーション能力を高めておくこと」でした。



【参加学生の声】

- 滋賀県の地域医療体制の話が興味深かった。
- 小児科から内科への引継ぎの難しさについてもう少し聞いてみたかった。
- NICUの赤ちゃんの小ささに驚きました。なるべく赤ちゃんは助けたい気持ちになります。しかし、助けると医療費がかかるという話も聞いたことがあり、どうすることが正解なのか…。
- これまで何となく小児科に行きたいと考えていただけで、小児科がどのような勤務状況なのかといった具体的な内容を知らなかったため、そういった話を聞くことができ良かったです。また、NICUについてもどのようなものか知らなかったため、考えたことがなかったですが、少し興味を持つことができました。今後も様々な自主講座に参加し、視野をひろげて、自分に本当に合った科はどこなのか考えていきたいと思えます。
- とてもインフォーマティブな内容で勉強になった。小児科がいかにジェネラルな科であるかがよくわかった。少子化と小児科の関わりについても聞きたかった。

○小児科医は、子どもだけでなく、家族(親)までしっかりみて支えていくことが求められるのだということがよく分かりました。また、患者さん及びその家族を支えるには、いろいろな職種の協力が欠かせないのも再確認しました。やっぱり大切なのはコミュニケーション力なのですね。

○大変勉強になりました。特に阪上先生のご専門は興味を持っている分野でもあり、女性医師ならではの難しさについてもうかがうことができ嬉しかったです。

○小児科でみた患者さんを大人になってからもみていくのは大変だなと思いました。小児が専門なのに成人患者を診察するのは矛盾しているなと感じました。

○こじんまりとした会で、現場でご活躍されている現役の先生方のお話を伺うことができ、自分の将来を考えるすごく貴重な経験になりました。ぜひまた参加させていただきたいです。

○講座どうもありがとうございます。現役医療において、社会面や医学面などの小児科という分野を知ることができてとてもよかったです。

○単純に子どもが好きだからという理由で参加しましたが、より興味を持つようになりました。

○子どもの発達について興味があり、今回のお話をうかがえてとても良かったです。

平成27年度事業 FD(教育技能)研修会・意見交換会を開催しました

2016年1月29日

1月21日(木)アーバンホテル南草津において「地域里親学生支援事業」の一環である「FD研修会・意見交換会」を開催しました。

今回の研修会では、医療情報部 永田 啓教授から「変わる医学教育」と題して、講演いただきました。

講演では、国際基準に対応した医学教育のあり方について医学教育分野別評価基準に基づき話があり、参加された方々からも活発な意見が出されました。

引き続き和やかな雰囲気の中、出席者の自己紹介などを含め意見交換や懇談が行われました。昨年に引き続きペアで参加された里親・里子の姿もあり、より一層交流ができる良い機会となったようです。

お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。





【開催案内】第5回滋賀県医師キャリアサポートセンター懇談会

2016年1月15日

日 時： 平成28年 2月4日（木）17：00 ～（1時間程度）
会 場： 滋賀医科大学医学部附属病院
医師キャリアサポートセンター室（病院3階 第3会議室前）
講 師： 国立病院機構 東近江総合医療センター 消化器科（副院長）
滋賀医科大学 総合内科学講座（地域医療支援）辻川 知之 教授
テーマ： 『 地域医療について 』
参加費： 無料

医学生からの質問や相談もお受けします。
この機会に気になること、知りたいことをお聞きしてみませんか？
本学以外の医学生の方も大歓迎です。
皆さまのご参加をお待ちしております。

参加をご希望される方は下記の連絡先まで、学年・氏名をご記入の上
メールでお申し込みください。電話でも受け付けております。

詳細につきましてはHPをご覧ください。
<http://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/>

〔問合わせ・申込先〕
滋賀県医師キャリアサポートセンター
事務担当・相談窓口： 滋賀医科大学病院管理課
〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
TEL：077-548-3656
E-mail： ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp
担当：北川・左近田